

LONDON DEREK FROST IN HIS HOME

デレック・フロストの住まい

家具デザイナーとして活躍中のデレック・フロスト氏。

“ビムリコ”と呼ばれる閑静な住宅地に位置するフロスト氏の住まいには、彼自身の哲学の全てが表現されていた。

彼自身のコンセプトが息づく彼のインテリア。どこかキラリとした輝きが感じられた。



庭からの光と2階の天井からの外光が差し込み、昼間は本当に明るいリビングルーム。

いくつかあるロンドン市内の静かな住宅地の一つに、ビムリコ地区がある。テムズ河が近くに流れ、グリーンベルトの並木道があり、チェルシー地区とは違った趣のある住宅地だ。かつては貴族階級の邸宅が並んでいたこともあるという。ベルグレイブ・スクエアのあたりは、ベルグレイブ・スクエアと呼ばれる白亜の建物が建っているが、見事なものだ。この一角に家具デザイナーとして知られるデレック・フロスト氏の邸がある。その邸に入るやいなや、外光が差し込むコンテンポラリーな贅沢な造りにたいへん驚かされる。自分の持っている哲学の全てをインテリアに託したと思われる部屋の雰囲気は実に素晴らしい。広々としたエントランスは、まるで映画のセットを思わせる造りだ。家具の配置、そして2階への螺旋階段などにも光の効果、がうまく写し出されている。日本庭園をイメージして作られた中庭には、大きな池があり、鯉も何匹か飼われている。その中庭をゆつくりと傍観できる場所にもう一つの部屋が備えられてある。それが植物園を思わせるような温室。ゆつたりと心を和ませる時間と場所は、本当に大切です。と彼は言う。

1階は、リビングルームとダイニングルームになっていて、キッチンがダイニングルームの横にある。その配置がとても便利だという。食卓はフロスト氏のデザインによるもので、アール・デコの影響を思わせるかのようなデザインだ。外光がふんだんに差し込むリビングルームには、グエン・ハーディの大きな手の絵と、ロバート・ローヴェの女性の絵が掛けられ、広いスペースに実によく溶け込んでいる。ファニチャーデザイナーらしい彼のデザインした椅子とクラシックなものが折衷され、リズム感のあるスペースになっている。2階には書斎、ベッドルーム、バスルームがある。そしてまたそのテーブルや椅子や家具も彼自身がデザインしたもの。自分の家にふんだんに取り込まれた彼自身のコンセプトが輝いていた。



フロスト氏のデザインした椅子や、ショップで買い集めた小物類が並べられている。



2階にあるフロスト氏のオフィス。



フロスト氏デザインのベッド。



ユニークな形の洋服ダンスもフロスト氏デザイン。



フロスト氏の書斎のデスクも彼のオリジナルデザイン。

DEREK FROST IN HIS HOME



ダイニングルームにはフロスト氏のデザインによるアール・デコ調の椅子とテーブルが並べられている。



植物園を思わせるかのようなリラックスルーム。窓からは日本庭園が眺められる。